

全体会議開催 「ユーザーの声収集活動」を全国展開 43都道府県 2,287人の「声」集まる

「勝負の年」に向け、早期に活動計画策定・始動へ 自動車税制改革フォーラム

自 動車税制改革フォーラムは2月1日、東京・港区の日本自動車工業会会議室で平成29年度全体会議を開催し、平成29年度の活動の総括と、平成31年度税制改正に向けた今後の活動について意見交換した。

フォーラムでは、平成29年度は、平成31年度税制抜本改正に向けた中間年であるとして、「世論喚起の継続的盛り上げが不可欠である」との認識に立ち、自動車ユーザーの声を、特に生活の足としてクルマを使っている地方ユーザーの声を世論や政府・与党、自治体などに効果的に訴える活動を展開。具体的には、日本自動車連盟（JAF）が中心となって「ユーザーの声収集活動」（ユーザーに税に対する意見をフリップに書いていただき、フリップを持ったユーザーの写真をJAFホームページなどで紹介）を初めて全国で展開した。

この活動は昨年末現在、43都道府県で実施され、合計2,287人から貴重なご意見やご要望をいただいたことや、残る大分は2月、茨城、岡山、広島の3県については来年度の早い時期に実施する予定であることなどが事務局から報告された。また、チラシ

を配布してユーザーの税負担軽減を訴える「街頭活動」も北海道から九州・沖縄まで全都道府県で実施。今年度は2つの活動の相乗効果により、一層世論を喚起していく活動を展開した。

平成31年度税制改正は、「自動車の保有に係る税負担の軽減に関し総合的な検討を行い、必要な措置を講ずる」との平成29年度与党税制改正大綱の記載に具体的な結論を出す極めて重要な年である。このため、フォーラムでは本年は「勝負の年」と位置づけ、フォーラムの総力を結集して取り組み、次のような考え方を前提として活動を行っていくことになっている。

- (1) 自動車ユーザーを中軸に据えた活動を展開する。
- (2) 自動車ユーザーの声をさらに拡散するとともに、最大限効果的に政策決定者に打ち込む。

このような考え方に基づき、「ユーザーの声収集活動」で集まった声を地元選出国會議員へ届ける活動をはじめ具体的な活動を展開していくが、早期に活動計画（内容・時期など）を策定し、4月から始動できるよう準備を進めていく。

水素エネルギー 普及へセミナー

F Cバスなどの最新情報発表

都の産学官連携チーム

東 京都が昨年11月に発足させた産学官連携の「Tokyoスイソ推進チーム」は2月1日、東京・大手町のサンケイプラザで、水素エネルギー推進セミナー「水素が動かす、東京の未来」を開催した=写真=。同チームの参加メンバーらが最新の情報を発表・共有することで水素エネルギーの普及に向けた各社各団体の取り組みを一層活発化すると



もに、一般都民にも広く啓発するのが狙い。会場には満席となる約400人が詰めかけ、昼休みをはさんで4時間半にわたる多様な講演に耳を傾けた。

Tokyoスイソ推進チームは、水素エネルギーの普及に取り組む民間企業や業界団体、自治体、学校など115社・団体で構成。水素の分子量2.01にあやか